

右手に持つ剣はお不動さまの大
きな特徴で、智恵の象徴です。
「智恵の利劍（鋭い剣）」という
言い方もします。よく切れる剣の
ような智恵で、お不動さまが、私
たちの煩惱や苦しみ、災難を断ち
切ってくださるということです。
それは『聖不動經』の「大智の剣
を執つては貪瞋痴を害し」という
言葉に象徴されています。



お不動さまの特徴は、お姿のひ
とつひとつに功德が込められてい
ることです。これからそれぞれの
意味を見ていいきたいと思います。

三番 最明寺 下泉 全暁
第一回 「剣」

この度、四国三十六不動靈場先達
会会長をさせて頂くことになります。
父の後を引き継ぎ、不動先達とし
て二十年余り、靈場参拝をはじめ、
不動の火祭りには毎年お手伝いをさ
せて頂いております。素晴らしい行
事に参加することができ、お不動さ
まの御利益を頂いていることを有り
難いと思います。

三十周年の大きな節目にあたり、
数々の事業が計画されております。
力及びませんが、先達の皆様方のよ
り一層のご協力・ご指導をよろしく
お願い申しあげます。

また『不動尊劍功德の文』では、
「右の御手には利劍をたづさえ、
この利劍には一々諸神こもらせ給
う。切つ先は石清水正八幡大菩薩、
焼刃は俱利伽羅不動明王、・・・。
右の柄節三十三、左の柄節三十三、
これ日本六十余州の大小の神祇
と、劍のそれぞれの部分に、仏さ
まとともに日本の神々が宿るとし
ています。まことに力強い劍です。
俱利伽羅龍王といって、龍が劍
にからみ付いた姿もありますが、
この龍はお不動さまが変身した姿
であり、お不動さまの功德を劍ひ
とつで象徴した姿といえます。

江戸時代の浄土宗の高僧であつ
た祐天上人という方が、若くして
増上寺へ弟子入りした当初、物観
えが悪くて破門されました。しか
し、成田山のお堂にこもつて一生
懸命に祈願したところ、お不動さ
まが現れ、祐天上人に剣を呑ませ
て素晴らしい智恵を授けたという
伝説があります。上人はその後、
五代将軍徳川綱吉や桂昌院、六代
勝軍家宣の帰依を受ける一方、怨
靈を成仏させるなど多くの靈験を
残しています。

すばらしい力と智恵がこめられ
たお不動さまの剣に願いをこめて、
一心にお祈りいたしました。

③鐘樓

鐘楼堂があれば、注意書（鐘を撞
いてはいけないとか、時間帯等）を
確認し、感謝の気持ちとお不動様に
お参りに来たことをお知らせする思
いを込めて優しく一回撞きましょう。

②手水舎

手と口そして、心を清める作法で
す。先ず、右手に柄杓を持ち、水を
汲み、左手を洗う。

次に、柄杓を持ち替えて右手を洗
い、左手に水を溜め、口をすすぎま
す。柄杓を立てて、残りの水で柄杓
の握りの部分を洗います。柄杓に直
接口をつけないのが礼儀です。

①山門

山門又は、靈場境内に入る前に、
お参りの輪袈裟、念珠等の身なりと
心を整えましょう。

境内、山門に入る時、合掌をして
一礼致します。この時、菅笠以外の
帽子は脱ぎ、左側を歩きます。

④お迎え童子

靈場には三十六童子の石像が境内
におまつりされ、お不動様の使者と
して、ご参拝の皆様をお迎えしてくれます。また、三十六の幸せになる
ための修行を示してくれます。童子
さんの前にいたればその修行の言葉
と御真言を唱え、願いをこめ、お祈
りいたします。

⑤本堂もしくは不動堂

ロウソクは仏様の知恵の光明で、
私達の悩みや苦しみ、悲しみを除き
心の闇を明るく照らす光です。上段
から各自、一本づつ立てます。次に
線香を香炉の中央から立てます。お
不動様をはじめ諸天善神をお香で燒
き、息災、福寿の御加護を授かる供
物です。そして、あらかじめ住所、
氏名や願い事を記入した納め札を納
札箱に入れて後、お供え料としての
お賽銭を、お不動様に手渡す気持ち
遠くから投げたり、ぶしつけな納
め方はいけません。

③鐘樓

鐘楼堂があれば、注意書（鐘を撞
いてはいけないとか、時間帯等）を
確認し、感謝の気持ちとお不動様に
お参りに来たことをお知らせする思
いを込めて優しく一回撞きましょう。

②手水舎

手と口そして、心を清める作法で
す。先ず、右手に柄杓を持ち、水を
汲み、左手を洗う。

次に、柄杓を持ち替えて右手を洗
い、左手に水を溜め、口をすすぎま
す。柄杓を立てて、残りの水で柄杓
の握りの部分を洗います。柄杓に直
接口をつけないのが礼儀です。

①山門

山門又は、靈場境内に入る前に、
お参りの輪袈裟、念珠等の身なりと
心を整えましょう。

境内、山門に入る時、合掌をして
一礼致します。この時、菅笠以外の
帽子は脱ぎ、左側を歩きます。

④お迎え童子

靈場には三十六童子の石像が境内
におまつりされ、お不動様の使者と
して、ご参拝の皆様をお迎えしてくれます。また、三十六の幸せになる
ための修行を示してくれます。童子
さんの前にいたればその修行の言葉
と御真言を唱え、願いをこめ、お祈
りいたします。

⑤本堂もしくは不動堂

ロウソクは仏様の知恵の光明で、
私達の悩みや苦しみ、悲しみを除き
心の闇を明るく照らす光です。上段
から各自、一本づつ立てます。次に
線香を香炉の中央から立てます。お
不動様をはじめ諸天善神をお香で燒
き、息災、福寿の御加護を授かる供
物です。そして、あらかじめ住所、
氏名や願い事を記入した納め札を納
札箱に入れて後、お供え料としての
お賽銭を、お不動様に手渡す気持ち
遠くから投げたり、ぶしつけな納
め方はいけません。

③鐘樓

鐘楼堂があれば、注意書（鐘を撞
いてはいけないとか、時間帯等）を
確認し、感謝の気持ちとお不動様に
お参りに来たことをお知らせする思
いを込めて優しく一回撞きましょう。

②手水舎

手と口そして、心を清める作法で
す。先ず、右手に柄杓を持ち、水を
汲み、左手を洗う。

次に、柄杓を持ち替えて右手を洗
い、左手に水を溜め、口をすすぎま
す。柄杓を立てて、残りの水で柄杓
の握りの部分を洗います。柄杓に直
接口をつけないのが礼儀です。

①山門

山門又は、靈場境内に入る前に、
お参りの輪袈裟、念珠等の身なりと
心を整えましょう。

境内、山門に入る時、合掌をして
一礼致します。この時、菅笠以外の
帽子は脱ぎ、左側を歩きます。

④お迎え童子

靈場には三十六童子の石像が境内
におまつりされ、お不動様の使者と
して、ご参拝の皆様をお迎えしてくれます。また、三十六の幸せになる
ための修行を示してくれます。童子
さんの前にいたればその修行の言葉
と御真言を唱え、願いをこめ、お祈
りいたします。

⑤本堂もしくは不動堂

ロウソクは仏様の知恵の光明で、
私達の悩みや苦しみ、悲しみを除き
心の闇を明るく照らす光です。上段
から各自、一本づつ立てます。次に
線香を香炉の中央から立てます。お
不動様をはじめ諸天善神をお香で燒
き、息災、福寿の御加護を授かる供
物です。そして、あらかじめ住所、
氏名や願い事を記入した納め札を納
札箱に入れて後、お供え料としての
お賽銭を、お不動様に手渡す気持ち
遠くから投げたり、ぶしつけな納
め方はいけません。

③鐘樓

鐘楼堂があれば、注意書（鐘を撞
いてはいけないとか、時間帯等）を
確認し、感謝の気持ちとお不動様に
お参りに来たことをお知らせする思
いを込めて優しく一回撞きましょう。

②手水舎

手と口そして、心を清める作法で
す。先ず、右手に柄杓を持ち、水を
汲み、左手を洗う。

次に、柄杓を持ち替えて右手を洗
い、左手に水を溜め、口をすすぎま
す。柄杓を立てて、残りの水で柄杓
の握りの部分を洗います。柄杓に直
接口をつけないのが礼儀です。

①山門

山門又は、靈場境内に入る前に、
お参りの輪袈裟、念珠等の身なりと
心を整えましょう。

境内、山門に入る時、合掌をして
一礼致します。この時、菅笠以外の
帽子は脱ぎ、左側を歩きます。

④お迎え童子

靈場には三十六童子の石像が境内
におまつりされ、お不動様の使者と
して、ご参拝の皆様をお迎えしてくれます。また、三十六の幸せになる
ための修行を示してくれます。童子
さんの前にいたればその修行の言葉
と御真言を唱え、願いをこめ、お祈
りいたします。

⑤本堂もしくは不動堂

ロウソクは仏様の知恵の光明で、
私達の悩みや苦しみ、悲しみを除き
心の闇を明るく照らす光です。上段
から各自、一本づつ立てます。次に
線香を香炉の中央から立てます。お
不動様をはじめ諸天善神をお香で燒
き、息災、福寿の御加護を授かる供
物です。そして、あらかじめ住所、
氏名や願い事を記入した納め札を納
札箱に入れて後、お供え料としての
お賽銭を、お不動様に手渡す気持ち
遠くから投げたり、ぶしつけな納
め方はいけません。

③鐘樓

鐘楼堂があれば、注意書（鐘を撞
いてはいけないとか、時間帯等）を
確認し、感謝の気持ちとお不動様に
お参りに来たことをお知らせする思
いを込めて優しく一回撞きましょう。

②手水舎

手と口そして、心を清める作法で
す。先ず、右手に柄杓を持ち、水を
汲み、左手を洗う。

次に、柄杓を持ち替えて右手を洗
い、左手に水を溜め、口をすすぎま
す。柄杓を立てて、残りの水で柄杓
の握りの部分を洗います。柄杓に直
接口をつけないのが礼儀です。

①山門

山門又は、靈場境内に入る前に、
お参りの輪袈裟、念珠等の身なりと
心を整えましょう。

境内、山門に入る時、合掌をして
一礼致します。この時、菅笠以外の
帽子は脱ぎ、左側を歩きます。

④お迎え童子

靈場には三十六童子の石像が境内
におまつりされ、お不動様の使者と
して、ご参拝の皆様をお迎えしてくれます。また、三十六の幸せになる
ための修行を示してくれます。童子
さんの前にいたればその修行の言葉
と御真言を唱え、願いをこめ、お祈
りいたします。

⑤本堂もしくは不動堂

ロウソクは仏様の知恵の光明で、
私達の悩みや苦しみ、悲しみを除き
心の闇を明るく照らす光です。上段
から各自、一本づつ立てます。次に
線香を香炉の中央から立てます。お
不動様をはじめ諸天善神をお香で燒
き、息災、福寿の御加護を授かる供
物です。そして、あらかじめ住所、
氏名や願い事を記入した納め札を納
札箱に入れて後、お供え料としての
お賽銭を、お不動様に手渡す気持ち
遠くから投げたり、ぶしつけな納
め方はいけません。

③鐘樓

鐘楼堂があれば、注意書（鐘を撞
いてはいけないとか、時間帯等）を
確認し、感謝の気持ちとお不動様に
お参りに来たことをお知らせする思
いを込めて優しく一回撞きましょう。

②手水舎

手と口そして、心を清める作法で
す。先ず、右手に柄杓を持ち、水を
汲み、左手を洗う。

次に、柄杓を持ち替えて右手を洗
い、左手に水を溜め、口をすすぎま
す。柄杓を立てて、残りの水で柄杓
の握りの部分を洗います。柄杓に直
接口をつけないのが礼儀です。

①山門

山門又は、靈場境内に入る前に、
お参りの輪袈裟、念珠等の身なりと
心を整えましょう。

境内、山門に入る時、合掌をして
一礼致します。この時、菅笠以外の
帽子は脱ぎ、左側を歩きます。

④お迎え童子

靈場には三十六童子の石像が境内
におまつりされ、お不動様の使者と
して、ご参拝の皆様をお迎えしてくれます。また、三十六の幸せになる
ための修行を示してくれます。童子
さんの前にいたればその修行の言葉
と御真言を唱え、願いをこめ、お祈
りいたします。

⑤本堂もしくは不動堂

ロウソクは仏様の知恵の光明で、
私達の悩みや苦しみ、悲しみを除き
心の闇を明るく照らす光です。上段
から各自、一本づつ立てます。次に
線香を香炉の中央から立てます。お
不動様をはじめ諸天善神をお香で燒
き、息災、福寿の御加護を授かる供
物です。そして、あらかじめ住所、
氏名や願い事を記入した納め札を納
札箱に入れて後、お供え料としての
お賽銭を、お不動様に手渡す気持ち
遠くから投げたり、ぶしつけな納
め方はいけません。

③鐘樓

鐘楼堂があれば、注意書（鐘を撞
いてはいけないとか、時間帯等）を
確認し、感謝の気持ちとお不動様に
お参りに来たことをお知らせする思
いを込めて優しく一回撞きましょう。

②手水舎

手と口そして、心を清める作法で
す。先ず、右手に柄杓を持ち、水を
汲み、左手を洗う。

次に、柄杓を持ち替えて右手を洗
い、左手に水を溜め、口をすすぎま
す。柄杓を立てて、残りの水で柄杓
の握りの部分を洗います。柄杓に直
接口をつけないのが礼儀です。

①山門

山門又は、靈場境内に入る前に、
お参りの輪袈裟、念珠等の身なりと
心を整えましょう。

境内、山門に入る時、合掌をして
一礼致します。この時、菅笠以外の
帽子は脱ぎ、左側を歩きます。

④お迎え童子

靈場には三十六童子の石像が境内
におまつりされ、お不動様の使者と
して、ご参拝の皆様をお迎えしてくれます。また、三十六の幸せになる
ための修行を示してくれます。童子
さんの前にいたればその修行の言葉
と御真言を唱え、願いをこめ、お祈
りいたします。

⑤本堂もしくは不動堂

ロウソクは仏様の知恵の光明で、
私達の悩みや苦しみ、悲しみを除き
心の闇を明るく照らす光です。上段
から各自、一本づつ立てます。次に
線香を香炉の中央から立てます。お
不動様をはじめ諸天善神をお香で燒
き、息災、福寿の御加護を授かる供
物です。そして、あらかじめ住所、
氏名や願い事を記入した納め札を納
札箱に入れて後、お供え料としての
お賽銭を、お不動様に手渡す気持ち
遠くから投げたり、ぶしつけな納
め方はいけません。

③鐘樓

鐘楼堂があれば、注意書（鐘を撞
いてはいけないとか、時間帯等）を
確認し、感謝の気持ちとお不動様に
お参りに来たことをお知らせする思
いを込めて優しく一回撞きましょう。

②手水舎

手と口そして、心を清める作法で
す。先ず、右手に柄杓を持ち、水を
汲み、左手を洗う。

次に、柄杓を持ち替えて右手を洗
い、左手に水を溜め、口をすすぎま
す。柄杓を立てて、残りの水で柄杓
の握りの部分を洗います。柄杓に直
接口をつけないのが礼儀です。

①山門

山門又は、靈場境内に入る前に、
お参りの輪袈裟、念珠等の身なりと
心を整えましょう。

境内、山門に入る時、合掌をして
一礼致します。この時、菅笠以外の
帽子は脱ぎ、左側を歩きます。

④お迎え童子

靈場には三十六童子の石像が境内
におまつりされ、お不動様の使者と
して、ご参拝の皆様をお迎えしてくれます。また、三十六の幸せになる
ための修行を示してくれます。童子
さんの前にいたればその修行の言葉
と御真言を唱え、願いをこめ、お祈
りいたします。

⑤本堂もしくは不動堂

ロウソクは仏様の知恵の光明で、
私達の悩みや苦しみ、悲しみを除き
心の闇を明るく照らす光です。上段
から各自、一本づつ立てます。次に
線香を香炉の中央から立てます。お
不動様をはじめ諸天善神をお香で燒
き、息災、福寿の御加護を授かる供
物です。そして、あらかじめ住所、
氏名や願い事を記入した納め札を納
札箱に入れて後、お供え料としての
お賽銭を、お不動様に手渡す気持ち
遠くから投げたり、ぶしつけな納
め方はいけません。

③鐘樓

鐘楼堂があれば、注意書（鐘を撞
いてはいけないとか、時間帯等）を
確認し、感謝の気持ちとお不動様に
お参りに来たことをお知らせする思
いを込めて優しく一回撞きましょう。

②手水舎

手と口そして、心を清める作法で
す。先ず、右手に柄杓を持ち、水を
汲み、左手を洗う。

次に、柄杓を持ち替えて右手を洗
い、左手に水を溜め、口をすすぎま
す。柄杓を立てて、残りの水で柄杓
の握りの部分を洗います。柄杓に直
接口をつけないのが礼儀です。

①山門

山門又は、靈場境内に入る前に、
お参りの輪袈裟、念珠等の身なりと
心を整えましょう。

境内、山門に入る時、合掌をして
一礼致します。この時、菅笠以外の
帽子は脱ぎ、左側を歩きます。

④お迎え童子

靈場には三十六童子の石像が境内
におまつりされ、お不動様の使者と
して、ご参拝の皆様をお迎えしてくれます。また、三十六の幸せになる
ための修行を示してくれます。童子
さんの前にいたればその修行の言葉
と御真言を唱え、願いをこめ、お祈
りいたします。

⑤本堂もしくは不動堂

ロウソクは仏様の知恵の光明で、
私達の悩みや苦しみ、悲しみを除き
心の闇を明るく照らす光です。上段
から各自、一本づつ立てます。次に
線香を香炉の中央から立てます。お
不動様をはじめ諸天善神をお香で燒
き、息災、福寿の御加護を授かる供
物です。そして、あらかじめ住所、
氏名や願い事を記入した納め札を納
札箱に入れて後、お供え料としての
お賽銭を、お不動様に手渡す気持ち
遠くから投げたり、ぶしつけな納
め方はいけません。

③鐘樓

鐘楼堂があれば、注意書（鐘を撞
いてはいけないとか、時間帯等）を
確認し、感謝の気持ちとお不動様に
お参りに来たことをお知らせする思
いを込めて優しく一回撞きましょう。

②手水舎

手と口そして、心を清める作法で
す。先ず、右手に柄杓を持ち、水を
汲み、左手を洗う。

次に、柄杓を持ち替えて右手を洗
い、左手に水を溜め、口をすすぎま
す。柄杓を立てて、残りの水で柄杓
の握りの部分を洗います。柄杓に直
接口をつけないのが礼儀です。

①山門

山門又は、靈場境内に入る前に、
お参りの輪袈裟、念珠等の身なりと
心を整えましょう。

境内、山門に入る時、合掌をして
一礼致します。この時、菅笠以外の
帽子は脱ぎ、左側を歩きます。

④お迎え童子

靈場には三十六童子の石像が境内
におまつりされ、お不動様の使者と
して、ご参拝の皆様をお迎えしてくれます。また、三十六の幸せになる
ための修行を示してくれます。童子
さんの前にいたればその修行の言葉
と御真言を唱え、願いをこめ、お祈
りいたします。

⑤本堂もしくは不動堂

ロウソクは仏様の知恵の光明で、
私達の悩みや苦しみ、悲しみを除き
心の闇を明るく照らす光です。上段